

人権理事会 社会的保護に関する高等弁務官代行の発言

2022/10/04

国連人権高等弁務官事務所

人権理事会のサイドイベントで人権高等弁務官代行が発言した。内容は以下のとおり。COVID-19 パンデミックは社会経済制度の深刻な脆弱性を明らかにした。3億5,000万人が失業し、今年は極度の貧困者がパンデミック以前より7,500万～9,500万人増加すると推定される。各国政府は危機の影響の緩和や社会保障の対象拡大のために前例のない措置をとっているが、大半が一時的・限定目的の措置である。世界大多数の社会保障に対する人権を実現するには、はるかに多くの行為が必要である。強力な社会的保護制度が整う国は迅速に援助を拡大し、危機による最悪の影響を克服しており、COVID-19 パンデミックは社会的保護の安定した力を示した。これらの教訓から学び、最も周縁化された人々に重点を置き、一時的・限定目的の措置を長期的政策に移行し、包括的な社会的保護制度を実施すべきである。また、今日の課題に対処するには世界の連帯と多国間主義が重要である。